

平成19年度ヨコワ情報

平成19年12月5日
鹿児島県水産
技術開発センター



1 今後のヨコワの来遊予測

本年12月から来年4月までの本県へのヨコワの来遊は、次のように予測されます。

漁獲量は、前年（19.7トン：低水準*）および平年（76トン：中水準*）を上回り、**高水準*（100トン以上）**となるでしょう。
主漁期は1～4月で、1月は**2～3kgサイズ**と**1～2kgサイズ**の双方が、2月以降は**1～2kgサイズ**が主体となるでしょう。

* 漁獲量を低・中・高の3水準に区分し、評価しています。

低水準：20トン未満 中水準：20トン以上100未満 高水準：100トン以上

2 予測の根拠

(1) 漁獲量

本県海域で漁獲されるヨコワは、長崎県海域から来遊すると考えられており、長崎県海域のヨコワ漁況が好調の場合、本県海域へのヨコワの来遊量が多い傾向があることから、長崎県の現在までの漁獲状況から、本県への来遊量を予測しています。

今期、現在まで得られている長崎県海域他の情報は、次のとおりです。

長崎県対馬海域の漁模様	好調
高知県の漁模様	好調
日本海の産卵親魚の漁模様	好調 （過去2番目の漁獲量・尾数）

これらの情報から、本県の漁期全体のヨコワの漁獲量は、**高水準（100トン以上）**となるでしょう。

今後、水技センターが発表する水温情報に注目してください。目安は、18～20 の水温帯です。

(2) 漁期・魚体サイズ

2～3kgサイズは今年春に太平洋で生まれた群であり、本県には11～1月にかけて来遊します。また、1～2kgサイズは今年夏に日本海で生まれた群であり、本県には1月～4月にかけて来遊します。

本県の主漁期は従来12～4月でしたが、近年漁期が後半にシフトし、1～4月が主漁期となっており、魚体も1～2kgサイズ主体となっています。

本年度も1～4月が主漁期と思われますが、各県の情報によると太平洋生まれと日本生まれの加入が共に良好であるため、1月は2～3kgサイズと1～2kgサイズの双方が、2月以降は1～2kgサイズが主体と予想されます。

3 情 報

(1) 現在までのヨコワ情報

日本海方面

山口県：例年ヨコワは曳縄主体で漁獲され、11月～12月が盛漁期である。平成19年11月の水揚量は低調だった**前年の約6倍**、**平年比較でもやや多い水準**である。魚体は1～2kg主体。

島根県：例年10～11月に行われる1kg弱の当歳魚を対象とした曳縄漁(養殖種苗採捕)は例年より早く9月末にスタートし、10月中旬には注文数を達成し終漁した。漁場が近くにでき、**漁模様は好調に推移**。

新潟県：定置網に11月下旬から2～3kgサイズ主体に入網が始まったが**量は多くない**。現在曳縄で日本海発生群と考えられる**1kg弱の当歳魚が混獲**されている。

対馬方面

10月末より曳縄漁が始まり、1～2kgの当歳魚(日本海発生群)と5kgの1歳魚を主体に105kg/隻のペースで漁獲され、11月当初は5kgの1歳魚を主体に103kg/隻、同中旬以降は2～3kgの当歳魚(太平洋発生群)を主体に75～93kg/隻と**好調に推移**している。

五島方面

12月5日現在、まだ**漁は始まっていない**。

太平洋方面

高知県：7月10日頃から始まり、その漁獲尾数は約89,000尾で**前年の約23,000尾**、**平年の約33,000尾を大きく上回った**。

鹿児島県沿岸域

笠 沙：笠沙～甕島海域での水族館用種苗のヨコワ採捕は、前年同様、8月中旬に開始された。水族館の注文数が550尾と少なく、早期に注文数を充足した。その後はクロマグロ養殖場向けの種苗採捕へシフトし、2千尾余りを採捕した。

平成19年：673尾、平成18年：500尾、平成17年：1,037尾、平成16年：1,661尾
平成15年：2,882尾、平成14年：249尾、平成13年：883尾

甕 島：11月上旬から、浮魚礁で2～3kgサイズの太平洋発生群と思われる当歳魚が漁獲され始めた。カツオ混じりで**50～200kg/隻と好調**。

(2) クロマグロ大型群に関する情報

太平洋方面

北部太平洋で今年、大中型まき網により漁獲されたクロマグロは、20kg以上の「マグロ」の漁獲量が830トン(前年：570トン)で対前年比146%と**大幅な増大**。20kg未満の「メジ」の漁獲量は65トン(前年：1,264トン)で対前年比13%と**大幅な減少**。

日本海方面

日本海の境港に今年、大中型まき網により水揚げされたクロマグロは、漁獲量が1,978トン(前年：1,778トン)で対前年比111%、漁獲尾数が45,079尾(前年：21,666尾)で対前年比208%と漁獲尾数が大幅に増大し、**量・尾数の共に過去2番目の好漁**となった。1尾当たりの平均体重は、40kg(前年：80kg)であったが、モードを見てみると、35kg(2004年生まれの3歳魚)と65kg(2002年生まれの5歳魚)の双峰形を示し、主体は3歳魚であった。

いずれも生殖腺は成熟しており，産卵に寄与していると思われる。

(3)本県における水揚げ量の経年変化

昭和60年度までは200トンを超える大好漁年と50トンに満たない年が交互に到来する周期性が伺えたが，昭和61年度を境にパターンが変化し，1～15トンの不漁年が8年間続いた。平成6年度以降は50トン前後の年と10トン未満の不漁年とが交互に到来しており，平成16年度には275トンと昭和53年度以来の200トンを超える大好漁となっている。

このように本県のヨコワ漁獲は，昭和60年度までの平均が100トンを超える高水準期，平成5年度までの平均が10トン未満で最大でも20トン未満の低水準期，平成6年度以降の平均が50トン程度の中水準期と3つに区分され，この区分から，漁獲量20トン未満を低水準，20トン以上100トン未満を中水準，100トン以上を高水準と設定した。

(情報及び資料の収集先)

本情報の作成にあたっては下記の団体及び機関から多大なる御協力をいただきました。
ありがとうございました。

甑島漁協・笠沙町漁協・南さつま漁協・枕崎市漁協・北部太平洋まき網漁業協同組合連合会
新潟県水産海洋研究所・鳥取県水試・島根県水産技術センター・山口県水産研究センター
高知県水試・長崎県総合水試
独立行政法人 水産総合研究センター遠洋水産研究所

鹿児島県水産技術開発センター

〒891-0315 指宿市岩本字高田上160番10

TEL : 0993-27-9212 , FAX : 0993-27-9218

E-mail : suisan@kagoshima.suigi.jp

U R L : <http://kagoshima.suigi.jp>

<http://kagoshima.suigi.jp/i/>(携帯電話)

下甑島沖浮魚礁音声情報サービス TEL : 0993-27-9233

漁海況週報FAX情報サービス

衛星画像(水温分布図) FAX : 0993-27-9234

漁海況週報 FAX : 0993-27-9235

